

## 第3部 ひかり学級

### 第1章 コース活動



ひかり<sup>がっきゅう</sup>学級 ミニー・コスモス <sup>こーす</sup>コース

かつどう<sup>なが</sup>活動の流れ

6月6日	ひかり <sup>がっきゅう</sup> 学級・公民館 <sup>こうみんかんがっきゅう</sup> 学級 <sup>かいきゅうしき</sup> 合同開級式
6月20日	わかそよ <sup>れんしゅう</sup> 練習
7月4日	わかそよ <sup>れんしゅう</sup> 練習
7月18日	わかそよ <sup>れんしゅう</sup> 練習
9月5日	午後 <sup>ごご</sup> のみ 自己 <sup>じ</sup> 紹介 <sup>こしょうかい</sup> ・何 <sup>なに</sup> をやりたいか <sup>はな</sup> 話し <sup>あ</sup> 合い
9月19日	午後 <sup>ごご</sup> のみ 学級 <sup>がっきゅう</sup> ソング <sup>れんしゅう</sup> の練習
10月3日	ハンドベル <sup>れんしゅう</sup> の練習
10月17日	コース <sup>かつどう</sup> 活動は午後 <sup>ごご</sup> 日 <sup>ひ</sup> 帰り <sup>りよう</sup> 旅行 <sup>はな</sup> の話し <sup>あ</sup> 合い
11月21日	こどもの <sup>くに</sup> 国 <sup>ひがえ</sup> 日 <sup>りよう</sup> 帰り <sup>くに</sup> 旅行 <sup>くに</sup> (こどもの <sup>くに</sup> 国)
12月5日	クリスマス <sup>かい</sup> 会 <sup>さい</sup> ポンチョ <sup>さくせい</sup> の作成
12月19日	クリスマス <sup>かい</sup> 会
1月16日	食 <sup>しょく</sup> パン <sup>どだい</sup> を土台 <sup>つく</sup> にフルーツ <sup>じっしょく</sup> ケーキ <sup>れんしゅう</sup> 作り・実 <sup>じつ</sup> 食 <sup>しょく</sup> 、ハンドベル <sup>れんしゅう</sup> の練習
1月30日	新年 <sup>しんねんかい</sup> 会 <sup>かい</sup> 学級 <sup>がっきゅう</sup> ソング「水色 <sup>みずいろ</sup> スマイル」 <sup>れんしゅう</sup> の練習
2月13日	「水色 <sup>みずいろ</sup> スマイル」 <sup>うた</sup> の歌 <sup>うた</sup> とハンドベル <sup>れんしゅう</sup> の練習
2月27日	「水色 <sup>みずいろ</sup> スマイル」 <sup>うた</sup> の歌 <sup>うた</sup> とハンドベル <sup>れんしゅう</sup> の練習
3月13日	成果 <sup>せい</sup> 発表 <sup>はつひようかい</sup> 会

## 1. 集団の特徴

男性5人、女性5人で構成されています。10人のうち、5人が車イスのため、外出の際交通手段を利用する場合は綿密な計画が必要です。

## 2. 活動のねらい

自分の気持ちを言葉で表現する人、体で表現する人など、表現方法は様々ですが、共通しているのは“音楽大好き！”ということでした。

そこで、音楽を使って自分の思いを表現できる活動を考えました。

## 3. 活動の様子と評価

### (1) こどもの国日帰り旅行

久しぶりの学級活動は、バスに乗っての外出でした。待ちわびていた気持ちが笑顔に表れていました。外での昼食、小動物との触れ合い、S L列車乗車と、移動でかなりの距離を歩いたにもかかわらず、みんな元気に歩いていました。

### (2) コース名作り

「水色スマイル」（さわやかだから）

「フラミンゴ」（色が好き）

「コスモス」（花が好き）

「ミニー」（かわいいから大好き）

4人の青年が意見を出し、じゃんけんで「ミニー・コスモス」に決まりました。

### (3) マラカス作り

ガチャポンのプラケースの中に、鈴・ビーズ・金属・米など7種類のものの中から好きなものを選び、好きなだけ入れて、色とりどりのマスキングテー

プでとめ、2本のプラスチックスプーンで固定します。色とりどり、音とりどりの世界で自分だけのマラカスを大事に持ち帰りました。

### (4) ハンドベル

全員で出来る楽器ということで、ハンドベルの練習をしました。「咲いた咲いた」「キラキラ星」「カエルの唄」「ドレミの唄」など、まずは簡単な曲の演奏から始め、次第に弾ける曲が増えてきました。音取りが難しい青年へは、担当者が後ろに立ち、肩で合図を出すなど工夫しました。

年明けからは成果発表会に向け、新曲の練習に踏み込みました。

### (5) グラスを楽器に

グラスをたくさん並べて、ハンドベルを振りながら同じ音が出るグラスを探し、グラスで「咲いた咲いた」を演奏できるようになりました。

### (6) グラス以外も楽器に

色んな大きさの空き缶を並べて、それぞれの音の違いを調べたり、大鍋のふたをシンバルにして鳴らしたりしました。大きな音が苦手な青年もいて、工夫する余地があります。

### (7) クリスマスポンチョの作成

クリスマス会用のポンチョを作りました。色とりどりの布をポンチョの形に切り、様々なクリスマス用の飾りを貼り付けました。布の色、飾りの種類を選ぶとき、青年たちのそれぞれの個性や個性が思いっきり作品に現れました。

## (8) クリスマス会

サンタクロース、トナカイ、天使のコスチュームを着る人、残りの方は自分たちで作ったポンチョを着て、ハンドベルで「キラキラ星」を演奏しました。当日のコース発表はトリを飾り、他のコースからも大盛況でした。演奏も、聞き役の青年も、心から楽しむ様子が伝わってきました。

## (9) 食パンでケーキ作り

コロナ禍で本格的な調理は難しい状況でした。そのような中で、包丁を使わずに接触を避けた方法として、ケーキ作りに挑戦しました。

年明けはコロナの影響でお休みする青年が増え、2人での活動となりましたが、薄切り食パンを土台にしてフルーツケーキを作りました。他のコースにも飾りつけをした一口サイズのケーキをおすすめし、好評でした。用意した材料をほぼ使い切り、完食しました。

## (10) 新年会

1月には午前の時間、学級全体で新年会を行いました。内容は福笑い、書初め、ボッチャとコースを越えたものでした。慎重に見極めて挑む青年、勢いよく書き上げる青年一人ひとりの個性が現れました。今回の福笑いはおかめ顔でしたが、来年は顔を変えて挑戦したいとの声もありました。書初めは、「虎」、「がんばります。」、「今年の賀川のバザーがやれますように」などの抱負や今年の夢を書きました。

## (11) 新曲作り

コース名を決める時にじゃんけんをして負けて退いた、「水色スマイル」を題にして、学級ソ

ングをつくることにしました。

みんなで好きなものや好きなこと、やりたいこと、楽しかったことをたくさん出し合い詩を作りました。みんなが笑顔になる歌、思わず口ずさんでしまう歌。そんな歌にしたいと話し合いながらできた曲です。3拍子のワルツに乗せた歌詞は、とても耳に残るものです。

## (12) 成果発表会

コロナや仕事の都合で当日の参加数が危ぶまれましたが、男性2人、女性1人の3人で発表を迎えました。2人の男性の青年は、手作りのクリスマスポンチョを着て、唯一の女性には白いシーツを持参してもらったものを、ウエディングドレス調に仕上げ、召した姿はとても素敵でありました。青年もとても嬉しそうでした。

本番では、「水色スマイル」のハンドベル演奏と、歌を初披露しました。

## 4. 課題と展望

青年が学級に来るのは「自分の思いを表現したい。そして、誰かに分かってもらいたい。ここに来れば自分の思いを出すことができる。自分を理解しようとしてくれる人たちがいる。」そういった思いがどこかにあるのではないのでしょうか。

音楽が心をリラックスさせ、かつ自分の思いを表現できるものであるならば、青年の要求にそえるコース活動ができるような幅広い選択肢を探していく必要があります。

# [水色スマイル]

[作曲者]

Piano



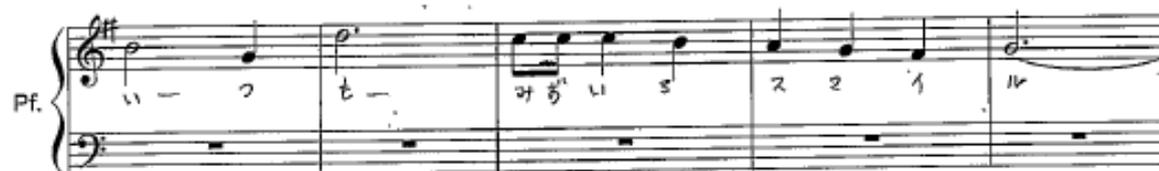
淡  
笑。 ちやえ 笑。 ちやえ 笑。 せえ 笑。 ちやえ

Pf.



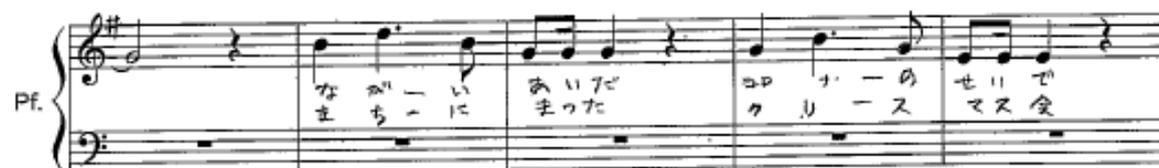
笑。 ちやえ 笑。 ちやえ 笑。 ちやえ 笑。 ちやえ こゝろの なみは

Pf.



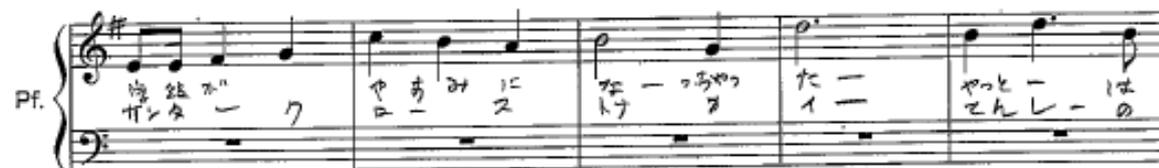
いっ つ もー ちやえ いっ っ ス ス イ ル

Pf.



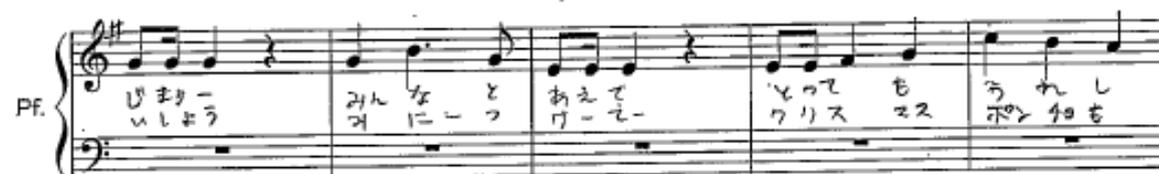
なみ ちやえ いっ ちやえ ちやえ の せいで まるごと

Pf.



海 びら びら ちやえ に ちやえ ちやえ たー やとー は

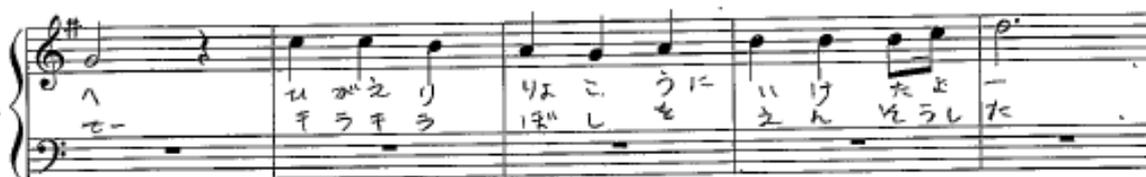
Pf.

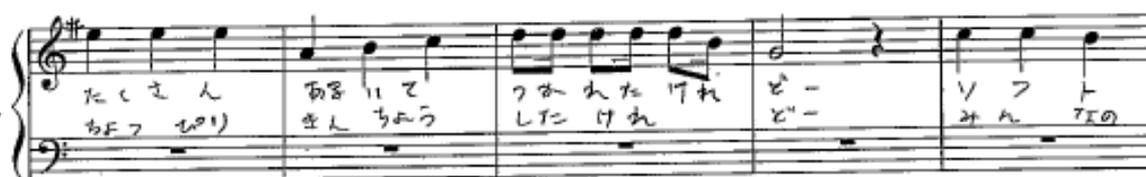


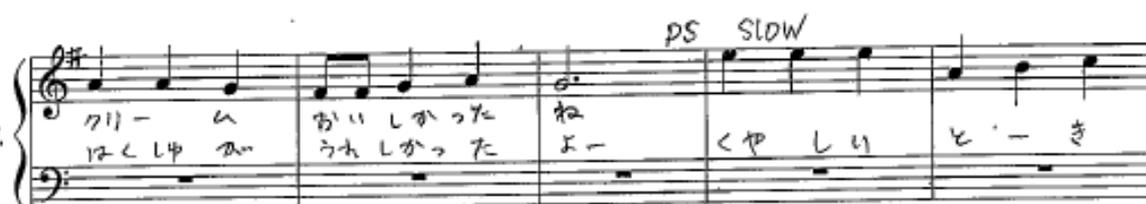
いしやう ちやえ と あえて ちやえ ちやえ ちやえ し

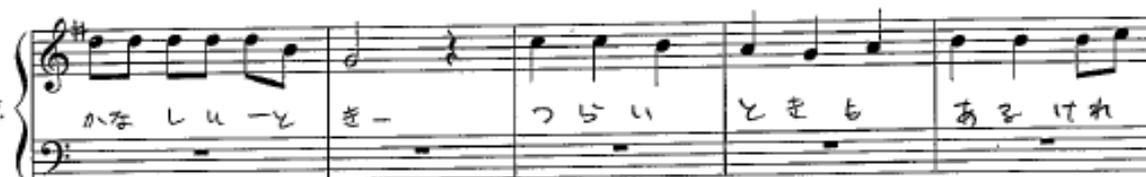
[タイトル]

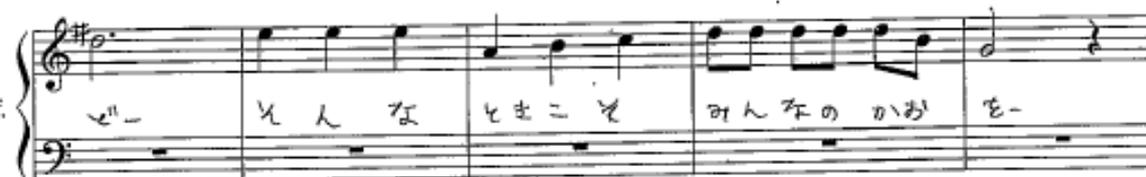
Pf.    
 か-った よー パ ス に の っ て こども の くに  
 ス-った エー ハ ン ド ゲ ル を かん しやう-し

Pf.    
 へ ち が え り や こ う に い け た よ-  
 セー フ ラ フ ラ ほ し を えん せうし た

Pf.    
 た く し ん あ ん じ と つ か ん た け れ ど- ヴ フ ト  
 お F 7 (201) き ん ち ゅ う し た け れ ど- み ん づ の

Pf.  *ps SLOW*  
 クリ-ム おいしかった ね く や し い と-き  
 はくしや か うめしかった よー

Pf.    
 かな し い と き- つ ば い と き も あ ん け れ

Pf.    
 と-き 人 な と き こ と み ん づ の か お を-

[タイトル]

Pf. 
  
あ も り だ し て お り お う よー いーい

Pf. 
  
笑っ ちえ 笑っ ちえ 笑っ ちえ 笑っ ちえ

Pf. 
  
笑っ ちえ 笑っ ちえ 笑っ ちえ 笑っ ちえ

Pf. 
  
こころの なかは いーつ も 2/3

Pf. 
  
スライ ル こころの なかは いーつ

Pf. 
  
も 2/3 スライ ル

ひかり学級 がっきゅう さざんかアートコース  
 活動の流れ かつどう なが

6月6日 <small>がつ か</small>	ひかり学級・公民館学級合同開級式 <small>がっきゅう こうみんかんがっきゅうごうどうかいきゅうしき</small>
6月20日 <small>がつ か</small>	わかそよについて話し合い <small>はな あい</small>
7月4日 <small>がつ か</small>	七夕づくり、わかそよに向けた話し合い <small>たなばた む はな あい</small>
7月18日 <small>がつ にち</small>	わかそよに向けた活動（うたの練習、小物づくり） <small>かつどう れんしゅう こものづくり</small>
9月5日 <small>がつ か</small>	午後のみ 自己紹介、話し合い、忠生図書館 <small>じこしょうかい はな あい ただおとしよかん</small>
9月19日 <small>がつ にち</small>	午後のみ 借りてきた本からものづくりのヒントを探す、忠生公園で素材集め <small>か ほん きが ただおこうえん そざいあつ</small>
10月3日 <small>がつ か</small>	秋のモビールづくり、写真立てづくり <small>あき しやしん たてづくり</small>
10月17日 <small>がつ にち</small>	午後おおよそ一時間のみの活動 話し合い（日帰り旅行について、クリスマス会について） <small>いっじかん かつどう はな あい ひがえり りょこう かい</small>
11月21日 <small>がつ にち</small>	日帰り旅行：こどもの国 <small>ひがえり りょこう こどものくに</small>
12月5日 <small>がつ か</small>	クリスマスツリーの飾りづくり <small>かざり</small>
12月19日 <small>がつ にち</small>	クリスマス会： <small>かい</small>
1月16日 <small>がつ にち</small>	初詣、カルタづくり <small>はつもうで</small>
1月30日 <small>がつ にち</small>	新年会： 一年間の活動の振り返り <small>しんねんかい いちねんかん かつどう へん かい</small>
2月13日 <small>がつ にち</small>	来られていない学級生に向けたメッセージづくり・退級される青年に向けた 手紙 <small>こ がっきゅうせい む たいきゅう せいねん む てがみ</small>
2月27日 <small>がつ にち</small>	作文作成 <small>さくぶんさくせい</small>
3月13日 <small>がつ にち</small>	成果発表会 <small>せい か はつひょうかい</small>

## 1. 集団の特徴

青年13名。男性8名、女性5名の計13名で構成されています。車いすの青年が多いひかり学級ですがものづくりコースは車いすの方が2人のみで、また4つのコース編成の中で人数が最も多いことも特徴の一つです。ものづくりが好きな方が集まっており器用な青年が多いです。

まん延防止等重点措置のため、お休みの青年が増えてしまう中、来られていない仲間を大切に思う瞬間が見られました。非常に穏やかで思いやりに溢れた集団です。

## 2. 活動のねらい

・個性を大切に、それぞれの表現の方法を尊重する

・さまざまな創作活動を通してものづくりの楽しさを共有する

・自分の思いを視覚化し、相手に伝えることで自分の思いを大切にしていく

## 3. 活動の様子

### (1) 近況報告と話し合い

2021年度は話し合いに多くの時間を使いました。わかそよに向けての話し合いや自分たちが何を作りたいのかなど何度も意見交流しました。最初は絵を描きたいと漠然と語っていた青年も次第に初詣に行きたい、来られていない青年たちを応援したいと話すようになりました。何度も話し合いをすることによって青年たちが仲間のことを思いやる瞬間が見られました。

### (2) コースの名前決め

2回目のコース活動では、最初にコースの名前を決めました。「さざんかやコスモスといった花の名前をいれる」というアイデアや「アートグルー

プという言葉を使いたい」という意見をもとに班長と副班長が中心となってみんなで話し合いをしました。「ものづくりよりアートのほうがいい」や「さざんかのほうが好き」など様々な意見が出ました。話し合いの結果、コースの名前は「さざんかアートグループ」になりました。



### (3) 忠生図書館

初めてのコース活動は忠生図書館に行きました。コース活動のアイデアを集めるために料理本や工作の本を借りました。借りてきた本を見て「これすごいね」「作ってみたい」と想像を膨らませることができました。





#### (4) 忠生公園で素材集め

借りてきた本からアイデアを得て秋のモバイルづくりをすることになりました。そのためにひかり療育園から歩いていける距離にある忠生公園で落ち葉や枝をみんなで拾いました。もくもくと拾う青年もいれば、日向ぼっこをする青年もいました。コロナ禍で外出制限が厳しくされている中でもあったので外で過ごすみんなとの時間は貴重でした。



#### (5) 秋のモバイルづくり・写真立てづくり

集めた落ち葉や枝を使って、モバイルと写真立てを作ることにしました。落ち葉やどんぐりに穴をあけて細い糸を通します。手先が器用な青年が活躍しどんどん作業を進めていきました。写真立てづくりも見事なものでした。作業の手際の良さ

にもものづくりコースの青年は器用な方が多いのだと改めて感じました。出来上がった作品を大切に持ち帰っていきました。



#### (6) 日帰り旅行（こどもの国）

こどもの国では昼食を食べたあと園内を散歩しました。散歩ルートはその場で話し合いながら、みんなで決めました。売店を見つけるたびにアイスやお菓子をかっていきました。嬉しそうにアイスを食べました。振り返りでも「こどもの国ではアイスがおいしかった。」と何度も話していました。お休みした青年にはお土産としてクッキーを買いました。





### (7) クリスマス会の飾りづくり

クリスマス会で飾る大きなツリーの飾りづくりをしました。各々、折り紙や画用紙を使って星や飾りを作りました。個性豊かでカラフルなクリスマスツリーの飾りが大量に出来ました。ツリーに飾りきれなかったものを模造紙に貼り付けました。ある青年が真ん中に「Merry Xmas」と筆記体で書いてくれ、青年たちは拍手をしました。



### (8) 初詣・カルタづくり

以前から「初詣に行きたい」と話していた青年がいたので、新年らしく初詣にいきました。外出が好きなスポーツコースと合同で淡島神社に行きました。願い事を聞くと「みんなが一年幸せに過ごせるように」「早くコロナが収まってほしい」「明日から仕事がんばります」といった素直な想いを教えてくれました。午後は新年らしいことがしたいということでカルタづくりをしました。“ひかりがっきゅう”の頭文字をとり8枚のカルタを作りました。手作りのカルタは商品よりも真心が込められています。作り終わった後は実際に作ったカルタで遊びました。他コースの人にも遊んでもらいとても盛り上がりました。



### (9) 成果発表会に向けて

#### ① 作文づくり

成果発表会に向けて何を作るか話し合ったときに「来られていない青年たちを応援したい」との意見がでました。そこで一年間自分が活動してきた感じたことをなんでも話せるように作文にすることにしました。一人一人にじっくり向き合っていると心の声が聞こえてきました。今年入った青年からは「せいねんがっきゅうはわたしのたか

らもの。わたしのいばしょ。ずっとだいすき。」と  
作文さくぶんにしていました。また一年間の活動いちねんかん かつどうを細かく  
日記のように作文さくぶんにしている青年せいねんもいました。  
文字もじに書くことで普段ふだんは言いにくいことを告げる  
ことができるのだと感じました。これからも何か  
大切なことたいせつなことを伝えようとしている青年せいねんがいるなら  
ば作文さくぶんなどを使って細かい想おもいを聞き取とっていき  
たいです。10分ふんほどの発表はつぱうを終おえた後は達成感たつせいかん  
に溢あふれた表情ひょうじょうをしている青年せいねんたちがとても  
印象的いんしょうてきでした。

## ②参加さんかを控ひかえる青年せいねんたち

今年ことしはコロナ禍かで学級がっきゅうをお休みやすする青年せいねんたち  
が増ふえました。また参加さんかしたい想おもいはある一方いっぺうで  
一日いちにちの活動かつどうはリスクがあると考かんがえ、半日はんにちで帰かえって  
しまう青年せいねんもいました。このような状じょう況きょうを見た  
ときに、「わたしはここでがんばるから。きぼうを  
もってほしい。ひかりでまっています。」「せいね  
んお休みやすでもとってもさみしかった。せいねん生き  
てます。」など来こられていない青年せいねんのことを大切たいせつに  
想おもい全員ぜんいんが元氣げんきに集あつまれる日ひを心待こころまちまちまにしている  
ことが分かりました。

## ③退級たいきゅうされる青年せいねんに向けての手紙てがみ

コロナ禍かで思おもうように活動かつどうができないことから  
ひかり学級がっきゅうを退級たいきゅうされる青年せいねんがいました。もの  
づくりコースでその方かたに向むけて何なにができるかを話はな  
し合あったときにある青年せいねんが「手紙てがみを書かきたい。」と  
話はなしてくれました。そこでレターセットを持もって  
きた担当たんとうしや者しやから何枚なんまいか便箋びんせんをもらい手紙てがみを書か  
きました。



## 4. 課題かだいと展てん望ぼう

### (1) 課題かだい

大おおきな課題かだいとしては3つ考かんがえられます。1つは  
青年せいねんたちの想おもいを形かたちにする活動かつどうができなかった  
ことです。作品さくひん作りというのは出来上できあがりに向むけ  
てきれいに作つくりああげるだけではなく、その作品さくひんに  
どのような想おもいが込こめられているのかが大事だいじです。  
特とくに青年学級せいねんがっきゅうではものづくりを表現ひょうげんの方法ほうほうの一  
つとして相手あいてに伝つたえることを尊そん重ちゆうしています。こ  
れまでの活動かつどうを振かり返かえってみると完成かんせいさせること  
が目標もくひょうとなつてしまい、青年一人一人の伝つたえたい  
想おもいをどう形かたちにしていくのかまで考かんがえることが  
できなかつたです。今こん後は青年せいねんの意い思しを汲くみ取り、  
どのようなことをすれば表現ひょうげんできるのか、また伝  
えられるのかを深ふかく考かんがえていきたいです。2つ目  
は人数にんずうが多く全員ぜんいんの意い見けんを反はん映えいさせられなかつた  
ことです。一人一人の意い見けんを反はん映えいさせてコース  
活動かつどうを進すすめていくことが出来できず、担当たんとうしや者しやが最終さいしゅう的てき  
にまとめてしまいがちです。また些細ささいな事ことでも  
多数決たすうけつといった安易あんいな方法ほうほうやなんとなくで決きめて  
しまうのではなくてどうしてその選せん択たくをしたのか、

なぜそのような発言ができたのかを青年の表情や声色から汲み取ることが出来ませんでした。新しい担当者が多く信頼関係が十分に築けていないこともあります。まずは青年たちのことを知ることはもちろんのことですが担当者同士も互いに認め合うことでさらに良い活動になるのではないかと感じました。最後は担当者同士で情報共有がうまくできていなかったことです。これが最も大きな反省点です。当日担当者の方に担当者会議で話されたことをわかりやすく伝えることや、各々抱えている活動に対する認識を一致することができなかったので進行や流れがうまくいかないことが何度もありました。今後は認識のずれがないように情報共有をしっかりと行っていきたいです。

## (2) 展望

ものづくりが苦手や得意関係なく、全員が自分の想いを形にしていくことの喜びを青年学級で感じてほしいと思っています。4つあるコース活動の中で「ものづくり」を選んだ背景にはなんとなくではなく必ず理由があるはず。それと同様に何色を塗るのか、また沢山ある素材から自分はどれを選ぶのかといったことも無意識のうちに青年の意思が反映されているはず。新しくかわるようになった担当者が多いがゆえに相手のことを知るうえではそういった些細な青年たちの行動や繊細な心を感じとることに意識を集中させられます。課題を強みと捉えて行動することでもものづくりコースがより深みのあるコースになるとおもいます。

ものづくりや音楽等の芸術においてはその作品にどのような想いがあるのかを考えることも大切です。青年のやりたいことに着目した活動

ができた一方でその作品をどのような想いで作ったのかということ深く聞くことはできなかった。ときに何度かありました。これからは活動をする。ことにも焦点を当てていきますが、それよりもまずは青年の声を形にしていくことを大切にしていきたいです。

ひかり学級 スポーツで伝える2022コース  
 活動の流れ

6月6日	ひかり学級・公民館学級合同開級式
6月20日	わかそよについて話し合い
7月4日	七夕づくり、わかそよに向けた話し合い
7月18日	わかそよに向けた活動（うたの練習、小物づくり）
9月5日	午後のみ ・ペットボトルボウリング ・ボッチャ
9月19日	午後のみ ・ペットボトルボウリング ・次回以降の活動についての話し合い
10月3日	・目標、コース名決め ・輪投げ ・忠生公園へ散歩(ボール投げ、フリスビー)
10月17日	・ボッチャ ・日帰り旅行とクリスマス会についての話し合い
11月21日	・日帰り旅行(ディスクゴルフ、園内を散歩)
12月5日	・日帰り旅行の振り返り ・ペットボトルボウリング
12月19日	・クリスマス会(今までの活動を紹介、ペットボトルボウリングの実演) ・ボッチャ
1月16日	・初詣(淡島神社へ) ・忠生公園へ散歩(がにやら自然館を見学) ・お正月の思い出の共有
1月30日	・新年会、ボッチャ大会 ・忠生公園へ散歩 ・フリスビー ・成果発表会に向けた話し合い
2月13日	・退級する青年への手紙 ・ディスクゴルフのゴール作成と練習
2月27日	・ディスクゴルフの練習 ・成果発表会のスライドと台本作り
3月13日	・成果発表会

## 1. 集団の特徴

男性11名、女性0名の合計11名で、男性のみで構成されているコースです。

スポーツに関心のある青年が多く集まっていて、積極的に活動している姿が見られます。以前からスポーツコースに所属している青年が多いため、青年同士のコミュニケーションが活発なところが特徴です。特に、話し合いの場でその特徴が活かされ、お互いの意見を引き出し尊重する、支え合うといった場面が多く見られます。

## 2. 活動のねらい

スポーツコースでは主に三つのことをねらいとして活動してきました

- ・コース名や目標にも表れているように、スポーツを通して他のコースの青年にもスポーツの楽しさ、得た学びを伝えていく
- ・健康になるためにはどのようなスポーツが効果的なのか、実際に取り組みながら考える。
- ・スポーツをするにあたり、コースの青年全員が楽しむことができる工夫をしていく

## 3. 活動の様子と評価

### (1) スポーツ

#### ①ボッチャ

コースでの話し合いの中で、青年からのリクエストが一番多く、ほとんどの学級日でボッチャを行いました。全員が参加できるようにチーム分けをし、班長と副班長が中心となって行われま

す。慣れ親しんだスポーツだからこそ、青年同士の「もっと前から投げてもいいよ」「惜しい」といった声かけ、工夫が多く見られます。この工夫は、

担当者が提案するのではなく、青年たち自身で考え、取り組んでいたことが印象的です。担当者も一緒に入って試合をすることもあり、スポーツを通じた信頼関係の構築において、重要な役割を持っているスポーツでもあります。クリスマス会や新年会では、ボッチャ大会が開催されました。普段はコース内での試合のみのため、他コースとの交流ができ、「〇〇さんのボールがよかった」「もっと練習が必要」「あの一球が決まっていれば勝てたかも」といった感想がありました。

しかし、以前からあるスポーツコース独自のルールで行ってきたため、他のコースにとっては違和感となる部分があったと思います。今年度は実現できませんでしたが、公民館学級との試合も企画されていたため、今一度、青年と担当者でルールの見直し、確認が必要です。



#### ②ペットボトルボウリング

ペットボトルボウリングもボッチャと同様に、話し合いの中でリクエストの多いスポーツです。チーム戦ではなく個人戦で、一人2球投げて合計の本数を競いました。他のスポーツと比べるとシンプルですが、結果がわかりやすく、取り組みやすいため、全員が楽しめるスポーツです。ボッチャでもあったように「筒を使ってもいいよ」や「ピンを近づけてやってみな」といった工夫が多く見られました。



### ③ディスクゴルフ

こどもの国で、何か新しいスポーツはないか検討し、ディスクゴルフに挑戦することを決めました。自然の中に設置されたゴールにフライングディスクをいかに少ない投数で入れられるかを競うスポーツです。こどもの国では、全員で行うには厳しい場所にゴールが設置されていること、ディスクゴルフを投げることに慣れていないため、試合形式ではなく、みんなで練習して、何枚入れられるかを競うことにしました。時間ぎりぎりまで取り組む青年の姿、もう少し難易度の高いゴールに挑戦しようとする姿が見られました。日帰り旅行という特別な行事であったこと、初めて挑戦するスポーツだったこともあり、積極的な参加につながったと思います。

日帰り旅行後の振り返りや次回以降の活動内容の話し合いの場面で「またディスクゴルフがやりたい」という意見が多くありました。その意見を取り入れ、成果発表会でオリジナルのディスクゴルフのゴールを作成し、実演することになりました。ゴールの土台となる段ボールに、それぞれ絵を描いて貼り付けました。スポーツコースでは、今年度初のものづくり活動でもありました。とても丁寧におせちの絵を描いていたり、フルーツの絵、卓球のラケットの絵を描いたりなど、個性あふれるゴールが完成しました。また、スポーツ以外

の活動だからこそその発見があったこと、全員で一つのものを作成するという活動ができたことは良かった点です。しかし、材料のほとんどを担当者側が用意してしまったことが反省点です。

日帰り旅行で取り組んだことをそれで終わりにするのではなく、自作し、成果発表会で披露できたことで、青年からの「学級内でできるスポーツを増やしたい」という意見、ねらいとしてきた「スポーツを通して他のコースの青年にもスポーツの楽しさ、得た学びを伝えていく」を達成することができました。



## (2) 外出活動

### ①忠生公園

話し合いの中で散歩に行きたいという意見が多く出たため、コースの体制が落ち着き始めた10月から活動に取り入れました。コロナ禍で外出の機会が減っていたのか、外出活動には積極的な意見が出ました。道中、歩くのが速い青年とゆっくりなペースの青年とで差ができてしまうことがあるため、担当者が声をかけて安全に気を付けて取り組みました。忠生公園ではボールを投げたり、ボールを蹴ったり、フリスビーなどを行いました。青年同士で「つぎ〇〇君だよ」という声掛けがあり、全員にボールが回るような工夫がされていたことが印象的です。一度だけ公園内にある、忠生がにやら自然館を見学しました。虫の標本や図鑑

を見たりして穏やかな時間を過ごしました。その帰り道では「ツマアカスズメバチって知ってる？」といった自然館を見学したことによる話題の広がりがありました。散歩は普段の活動に比べて気分転換にもなり、自然と会話が発生するため、お互いを知る良いきっかけとなります。



## ② 淡島神社

年明けに初詣に行きたいという意見が出たため、ものづくりコースと合同で淡島神社へ行きました。道中、年末年始にどのようなことをしたのか、今年の抱負は何かといったお正月ならではの話題で盛り上がりました。外出活動は忠生公園のみだったため、気分転換にもなったように感じます。



## ③ こどもの国

今年度はコース活動が9月から始まったため、この日帰り旅行は、コースの青年との信頼関係を深めることのできる機会でした。昼食場所から

ディスクゴルフの会場までかなりの距離があり、休憩をはさみながらも向かいました。初めて挑戦するディスクゴルフに苦戦しながらも、ゴールに入れたときの笑顔、歓声、拍手が印象的でした。

午後からの活動では、動物園を見学する共生グループと園内を周りながら戦争遺跡から平和を学ぶグループに分かれての活動でした。途中で雨が降り始めたため、早めに集合場所に戻るとなりました。雨が降る中、ゆっくりなペースで歩く青年に合わせて、振り返って待っていてくれる姿や職場の人たちのためにお土産を買って帰りたいという言葉に、青年たちの優しさや人柄を実感しました。



## (3) 成果発表会

成果発表会では、今までの活動の振り返りとディスクゴルフの実演を行いました。活動の振り返りのスライドと台本は、参加している青年で話し合っ決めていきました。休んでいる青年が多かったため、その青年との思い出、これから一緒にやりたいことを台本に取り入れたり、スライド作成では「休んでいる人が写っている写真を使おう」という言葉もあり、発表の中で全員に役割がある、全員の姿が見えるように作成していきました。

人数の都合上、当日に役割決めを行いました。

班長、副班長のリーダーシップもあり、問題なく進みました。発表本番では、ディスクゴルフの実演を、ひかり学級の青年だけでなく、見に来ていた他学級の青年にも体験してもらうことができ、今までの取り組みをスポーツコースらしく伝えることができたと思います。

担当者の反省点、改善点としては、経験が少なかったため、リハーサルでの立ち位置の確認や、話す順番などの確認に手間取ってしまい、円滑な支援ができませんでした。昼休憩の時間を使い練習をしたことで、本番では比較的スムーズに進めることができましたが、当日の打ち合わせで情報共有が的確に行えていれば改善できたことです。今回の経験を日常の活動でも反映していくことが重要です。



#### 4. 課題と展望

##### (1) 課題

スポーツコースとしての課題は主に二つ挙げられます。

一つ目は、青年一人ひとりに合ったコミュニケーションの仕方を取ることができていないことです。特定の青年を一人の担当者に任せっきりにしてしまう場面が多々あり、担当者で欠員が出た際

に臨機応変な対応ができていないと言えません。それに加えて、担当者同士の情報共有がうまくいかなかったり、考え方の違いがあったりしたため、話し合いの場面で円滑な進行ができませんでした。これらのことは、一年を通して改善していくことができましたが、依然として課題です。

担当者同士の情報共有に関しては、メッセージアプリを活用して疑問の共有を行い、当日に戸惑うことがないようにしたり、担当者会で綿密な話し合いを行ったりすることが重要だと考えます。また、担当者会に出られない担当者とは、学級日の終わりにコースで集まり、青年の様子や活動中に疑問に思ったこと、これからの予定についてなどを話し合う時間を設けることで改善していきます。

二つ目は、青年が心の底からやりたいと思っていることに触れられなかったこと、実現できなかったことです。他の青年に譲り、コースに共有できなかった思い、何気ない会話で出た意見（ダンスや料理など）を拾いきることができませんでした。一年の活動を通じ、青年たちと良い関係を築き、いろいろな話、意見を聞くことができたのにもかかわらず、それをうまく反映することができませんでした。コロナ禍で感染リスクの高い活動ができなかったこと、道具の準備ができないことなども原因として挙げられますが、一番は担当者側がスポーツをすること、成果発表会をどうするのかということにとらわれすぎてしまい、柔軟な対応が出来なかったことだと思います。

##### (2) 展望

次年度での活動では、主に三つのことを意識し

て活動に取り組みたいと考えています。

### ①スポーツのバリエーションを増やす

ポッチャやペットボトルボウリングなどのリクエストが多く、みんなで楽しめるスポーツがあることは良いことだと思います。しかし、それに固定されすぎてしまい、あまり活動に変化がないことも事実です。日帰り旅行でディスクゴルフに挑戦し、オリジナルのゴールを作成して学級に取り入れることで、より活動に幅ができ、積極的に取り組む姿勢が多くみられたと思います。また、新しいスポーツにこだわるのではなく、コースの青年が得意なスポーツに注目し、青年同士で教え合うような活動(例:〇〇さんの卓球教室)ができると、より深い学びのある活動になると考えます。

### ②青年の本心に近づく

ただ意見を聞いて実現するのではなく、なぜその活動をしたのか、その活動をどう広げていきたいのかといった、具体的な内容についても聞けるようになれば、より深い学びのある活動になると思います。青年の「～がしたい」という言葉の裏には、ただやりたいというだけでなく、他の青年、担当者に知ってもらいたい、見てもらいたいという思いが隠れていると思います。そうしたことを引き出し、尊重することができれば、本人の活動のモチベーションが上がり、それを見た青年も、自分もこんなことをしたい、教えたいという意欲の向上につながると考えます。その状況を作ることができれば、個性であふれる、得意なことを教え合うコース活動ができると思います。

### ③コミュニケーションの取り方の工夫

スポーツコースでは、筆談や指談を用いることで意見を伝えやすい青年が多くいます。しかし、筆談で対応できる担当者が多くいません。筆談ができる担当者が応援で来たとき、青年から出る意見には心が動かされるものも多くあります。

「ディスクゴルフは最初難しいけど、コツをつかむと楽しいし、チェーンに当てて入れるなど奥が深い。僕でも楽しめるスポーツ」と活動に対する感想を聞くことができたり、成果発表会で平和について考えたとき「東日本大震災も」というハッとさせられる意見が出たりしました。青年からの感想、意見は活動を考えていくうえで重要なことであり、新たな気づきを与えてくれます。青年側もその気持ちを伝えられないことにもどかしさがあるはずで、青年の心の中にある言葉をコミュニケーションの取り方が難しいという理由で見過ごしてしまうのは惜しいことです。そうしたことを少なくしていくためにも、様々なコミュニケーションの取り方を担当者が積極的に身に付けていく必要があると強く感じます。

ひかり学級 <sup>がつきゅう</sup> ふれあって <sup>と</sup> 飛びたとう <sup>へんしゅうぶ</sup> 編集部 ( <sup>かが</sup> 課外活動 <sup>を</sup> <sup>かんが</sup> 考える ) <sup>こーす</sup> コース  
<sup>かつどう</sup> 活動 <sup>なが</sup> の流れ

6月6日	開級式
6月20日	わかそよ練習
7月4日	わかそよ練習
7月18日	わかそよ練習
9月5日	グループ活動 (音楽・ものづくり・スポーツ)
9月19日	自己紹介、コースを選んだ理由、コース名、やりたいことの話し合い
10月3日	吹奏楽部演奏鑑賞とインタビュー、とびたとうの読み合わせ、話し合い
10月17日	選挙の学習会、センターまつり動画撮影、学習会の感想
10月23日	市役所で期日前投票
11月21日	こどもの国日帰り旅行
12月5日	日帰り旅行の振り返り、えほん障害者権利条約の読み合わせ、新曲作り
12月19日	昼食 (サンドウィッチとラスク) 作り、クリスマス会
1月16日	紙すき (牛乳パックでハガキ作り)、仲間へ手紙作成、新曲作り
1月30日	新年会、成果発表会の台本作り、新曲の練習
2月13日	コンファレンスの台本作り、練習
2月27日	共に学び、生きる共生社会のコンファレンス
3月13日	成果発表会
3月27日	とびたつ会見学

## 1. 集団の特徴

当初2人でしたが、青年の声掛けにより3名、ニュースを読んで入りたいと1名増え、計6名となりました。青年の声掛けとニュースでの発信によりメンバーが増えたことは、コースの思いが周囲に届いた嬉しいエピソードです。

## 2. 活動のねらい

- ・学級外での活動を考え、地域との交流を図る。地域と繋がり、自分達を知ってもらう機会を得る。
- ・日頃の悩みや疑問を共有し、学びたい素材を探し学習会を開く。学んだことをくらしでの活かし方、課外活動に結び付けることを考える。
- ・学級で取り組んでいない自由で新しい活動を考える。

## 3. 活動の様子と評価

### (1) 活動の柱について

#### ①「課外活動を考える」とは

今年から誕生したこのコースは、初めは担当者からの提案でした。2004年に青年学級を卒業した本人活動の会、とびたつ会が誕生して20年近く経つ今、新たな本人活動の会が必要だと話し合われてきました。前段として、学級内で「卒業を考えるコース」の設置が検討されましたが、始めから卒業を前提とはせず、「学級以外の活動＝課外活動」を考えるコースとしました。ゆくゆく課外活動が拡大し、独立することを目指しています。

#### ②コースの2本柱

コース活動の2本柱として、「地域との交流」と「学習会」が浮かびました。

「地域との交流」では、自分たちをはじめとした青年学級を知ってもらうこと、地域の人とつながりをつくること。また、「学習会」を開いて興味のあることを学び、社会の課題を考えること。この2つを目標に活動することとなりました。どちらも新しい試みに期待が膨らみました。

### ③コース名について

2011年の思い出を語る中で、ひかり学級30周年記念として、10年振りに文集とびたとうをつくらうと提案がありました。このコースでは原稿を編集しようとの思いから「とびたとう編集部」との言葉が出ました。他に地域との交流、仲間とのつながりで大切な「ふれあい」も掛け合わせ、コース名は、「ふれあって飛びたとう編集部コース」に決まりました。

### (2) 地域と交流しよう!

#### ①市民芸術祭の鑑賞

10月3日に市民ホールで東京町田ロータリークラブ主催の町田市民芸術祭があり、木曾中学校の吹奏楽部の演奏を鑑賞しました。演奏後、部員2名とインタビューをとおして、交流ができました。ほぼ毎日練習していることや、コロナ禍の練習の厳しさ、それを乗り越えて本番に向かう強さ等を聞き、仲間への信頼と情熱が伝わってきました。また、演奏で一番大切にしていることは「聴いている人を大切にすること」と話す姿は学級にも通ずるものがありました。

実は木曾中学校吹奏楽部とは、2020年に東京町田サルビアロータリークラブ主催のふれあいコンサートで共演したほか、2022年のふれあいコンサートでも共演することになり、音楽活動

でつながった縁を感じます。

## ②共生社会コンファレンスに参加

2月26日(土)には一般社団法人みんなの大学校が実施した「共に学び、生きる共生社会のコンファレンス」にオンラインで参加しました。町田の青年学級として、コースの1年間の活動を全国の方に報告しました。意見交換の時間も、学級活動や学級ソングの魅力も伝えたほか、他の地域の青年学級に関わる方の話を聞く機会もありました。中でも、群馬県邑楽町の青年学級の取組み紹介されましたが、おうら青年学級を開設した職員は40年以上前に町田の青年学級に担当者として関わっていた方で、そこでも縁がありました。様々な場所に出向き、縁を深めたいものです。

## (3) 学習会を開こう！

### ①選挙の学習会・期日前投票

10月31日の衆議院議員選挙を控え、学級全体に呼び掛け、選挙管理委員会の方を招いて選挙の学習会が実現しました。

学習会では投票までの流れや、代理投票・点字投票制度があり誰でも投票する権利があることを確認しました。その後、模擬投票として、公約を聞き、投票から開票までを体験しました。

振り返りでは「書いた人の名前を教えてはいけないと知り、いい勉強になりました。」「投票して嬉しかった。」等感じたことを共有しました。

10月23日には学級日以外としては初めての課外活動として、市役所へ期日前投票に行きました。家で書く練習をしてきたり、メモを持参したり、代理投票制度を用いたり、一人ひとりに合うやり方で投票に臨み、学びを実践につなげた活動

となりました。

## ②こどもの国と平和学習

11月の日帰り旅行で行ったこどもの国では、コース活動としてボートに乗りました。ボートが初めての青年もいて、真っ赤な紅葉を見上げ、気持ちの良い時間を過ごしました。

後半は他のコースと合流し、こどもの国の歴史と平和について学びました。戦中弾薬が作られていたことや、女子中学生も動員され学ぶ機会を失われたことなどを知り、弾薬庫跡や換気塔を実際に目で見て、身体で感じたことを共有しました。

「平和について考える機会になったし、平和の歌を作りたい。」「仲間と一緒に平和の碑を見て印象的だった。」など、記憶に残る活動となりました。

夏わかそよでは平和の輪を広げようグループとして臨み、様々な側面から平和について考えた一年となりました。

## ③えほん障害者権利条約

12月の障がい者週間には、「えほん障害者権利条約」を読み、自分らしく生きることについて話し合いました。

『私抜きに私のことを決めないで』と感じた経験について、「自分の思いがあるのにきちんと伝わらない。勝手に向こうが決める。通じる人と通じない人がいる。」「自分でできるのに、先にやられることがある。自分でやりたいのに。」との声があがりました。思いを発信できる場所、仲間との必要性が伝わってきます。

『くらしやすいまち』については、「いつでもグループホームに泊まれること」、「生の音楽やスポーツを見に行けること」、「コロナが収まって、自分

で買い物に行って好きなものを買うこと。」と意見  
が出ました。コロナ禍で当たり前が失われがちな  
今こそ、誰もが思いやりを持ち自由に暮らせる  
社会になるよう、問い続けていきたいものです。

#### (4) 目的に沿った活動

##### ① 買い物に行こう！

グループホームで暮らす青年の「(コロナ禍)前  
のように自分で買い物に行きたい」との願いを叶  
えるべく、買い物へ行きました。「ずっと筆箱が欲  
しかったけれど、コロナ禍で外出もできずにボロ  
ボロのものを使っている」と青年が話すと、コー  
スの青年から「みんなで買い物に行けばいいと思  
う」と声があがりました。クリスマス会の日に行  
き、ついでに食材も買い調理活動を行いました。  
調理活動では、仲間が勤めるスワンの食パンで、  
サンドウィッチとラスクを作りました。

青年の声を青年が汲み取り形にする姿は、何  
も言わずとも通じ合うような、気持ちの寄り添  
いがありました。楽しさも苦しみも、分かち合っ  
てきたからこそでしょうか。日々の思いを形にする  
場所が、学級の大きな役割の一つになっていま  
した。

##### ② 紙すき

「30周年式典をやるための、招待状を書きた  
い。」との思いから、ハガキ作りを行いました。  
牛乳パックを細かくすいて、型に流し、水を切  
り乾かせば完成です。仕事で紙すきをしている  
青年の手つきはてきぱきとスムーズに作りました。  
年明けは2、3人での活動が続きましたが、休みの  
メンバーの分まですき、メンバーへ「早くコー  
スのメンバーが揃うといいね。」「落ち着いたら

学級に来てください。淋しいです。待っています。」  
と手紙をしたため、学級ニュースに添えました。

手書きの文字が載った手作りのハガキが届いた  
時の仲間の表情を思い浮かべながら、コース  
全員揃うよう、願いが込められていました。

#### (5) 歌作り

コース活動2回目の活動日に早速一人の青年か  
ら、歌詞の提案がありました。歌詞の土台は「課外  
活動を伝える」、「地域と人生を考える」ことにあ  
りました。サビのメロディを即興で考えて、歌詞  
は活動の中で膨らませることにしました。

年明けに活動を振り返り、学習会を通し感じた  
思いや課外活動の経験、交流や話し合いから出た  
言葉をヒントに歌詞を作りました。思い出に残る  
よう、最後に「ふれあって飛びたとう」とコース  
名も入れました。メロディを出し合ったり、振付  
を考えたり、楽譜を手書きで持ち寄る青年もいた  
り、コース一丸で曲作りに臨みました。

ギターやピアノでの連弾、ハンドベルでの演奏  
などで発表したいとの声もあり、歌の伝え方も一  
工夫できそうです。平和や選挙についての歌も作  
りたいと意見が出ており、一つのテーマに沿った  
歌作りもしていきたいところです。

#### 4. 課題と展望

##### (1) 課題

何をもち課外活動とするのか、一人ひとりのイ  
メージが異なる、というのが前半の課題でした。  
初めてのコースのため、始めから共通意識を持つ  
のは難しく、活動を通し目指す道が見えてきた  
感触はありますが、まだまだ手探り状態です。

コースの紹介では、「青年学級で取り組んでいない新しい活動をやる」コースと置いています、新しい活動が地域との交流や、学習会なのでしょうか。地域との交流、学習会を通し学んだことを実践していくのが課外活動でしょうか。青年一人ひとりの考える課外活動について、もっと聞き出せれば、新たな柱が立てられるかもしれません。また、学習会、外出、創作と活動内容に富んではいましたが、文集とびたとうの編集には手をつけることができませんでした。来年度はスケジュールを立て、ある程度活動の目的を絞る必要があります。来年度以降もコースを継続することを想定すると、新たなメンバーへ説明する方法も考えなくてはなりません。

学級日以外でも活動を作るとは、場所から内容まで自分たちで決められ、学級よりも青年の主体性に委ねられ、自由度もあります。一方、ただの余暇活動ではなく、青年の意見を取り込んだ学びや経験を、仲間と共に得る場所である必要があります。学級と課外活動を両立させたいうで、課外活動が独立し、その先に本人活動の会があるのではないかと期待しています。

### (3) 展望

初めてのコースのため試行錯誤しながら、コースの基盤を作る一年になりました。初年度から、このコースに入った青年が他のコース、他学級の青年へどう課外活動を伝えていくのでしょうか。また、担当者はどう寄り添い、伝えることができるのでしょうか。2年目には新たなメンバーが加わり、課外活動が広がっていくことを期待します。

来年度取り組みたいこととして、大きく「文集

とびたとうの作成・編集」、「30周年式典の開催」、「喫茶のぞみの復活」があがっています。学級全体を巻き込む活動となるため、課外活動を全体に伝える機会となりそうです。

課外活動の独立が、本人活動の会立ち上げにつながると想定していますが、青年からも立ち上げへの意欲的な発言がありました。本人の学級への思いと立ち上げへの思いを共に尊重しながら、丁寧に進めていきたいところです。

またコース活動だけでなく、課外活動としての活動も重ねることで目標や目的が安定しそうです。

実際に、成果発表会から開級式までの学級活動がない期間にも、数回課外活動をしました。内容は新たな会の立ち上げのヒントを探すため学級から独立して誕生したとびたつ会の見学をしました。また、実践報告集を読み合わせここ10年間の活動を振り返り、30周年式典の計画も立てています。

学級日以外に課外活動を行うことで、新たな仲間の参加が3名ありました。2名はそれぞれ土曜学級、公民館学級に所属していましたが、独立を見据え課外活動コースで活動していくとの発言があり、ひかり学級に異動して来ました。

今後も活動の幅を広げ、新たな体験と交流を図ることで課外活動の魅力を引き出していきます。そして、独立した会となれるよう取り組んでいきます。

# 課外活動の歌

ふれあって飛びたとう編集部コース  
(ひかり学級2021課外活動を考えるコース)

Ribbon C F G

Clarinet か が い かつどうの う たを つ た え よ う

C F G C

か が い かつどうの う たを つ た え よ う

F C Dm C

ギ ー タ ー は ー い ー の ち おんがく いきてい る  
ポ ー ト か ら み た も ー み じ ま っ か で き れ い だ な

F C D7 G

ピ ー ア ノ ー は い ー の ち ぼくらは いきてい る  
だ ん や く こ あ ど ー か ら へい わ を う ー た お う

F C Dm C

ひ か り で も き ど う ひ ょ う せ ん き ゃ を ー ま な ん だ  
じ ぶ ん の こ と は じ ー ぶ ん わ た し は ー わ た ー し

F C D7 G

き じ つ ま え で だ い じ な い っ び ょ う い れ て き た  
み ん な で す い た は が き に あ し た の ゆ め の せ て

C F G C

じ ん せ い っ て な あ に ふ れ あ い っ て な あ に

F G Em Am G C

ふ れ あ っ て と び た っ ち ち い き と み ら い を か ん が え よ う

## 第2章 自治運営

### 班長会

#### 1. 班長会の概要

学級全体に関わる行事や、運営に関わるさまざまなことを調整する組織です。コース間の情報交換や交流をする場であり、日帰り旅行やクリスマス会、成果発表会など学級全体に関わる内容を話し合います。今年度は昼食後の12時45分から13時15分の時間を使い、各コースの班長や副班長が集まり行っています。

午前のコース活動の様子や全体での検討事項を共有しコースに持ち帰りコース内で共有します。行事に関しては話し合いだけでなく、実際の準備や運営も行うこともあります。

#### 2. 活動のねらい

班長・副班長の青年は各コースの代表として、話し合いに参加しています。コースの活動の振り返りや、学級として全体の決め事など、意見の取りまとめを行い、学級生による主体的な活動の実現をねらいとしています。

4コースが集まるため、話し合いの内容は多岐に渡り、検討事項も沢山あります。全体の活動を円滑に進めるにはコースを越えた連携が必要です。

#### 3. 活動の内容

##### (1) オンラインでの班長会

ひかり学級の新しい班長会の取り組みはリモートで行ったことです。外出先からリモートで課外活動コースが参加しました。初めての試みに不安もありましたが、これまでにない班長会に新鮮さを感じられました。今後も遠隔での班長会も取り組んでいきたいです。

##### (2) クリスマス会に向けて

12月19日のクリスマス会に向けて各コースの

班長と副班長を中心に話し合いました。これまでのクリスマス会と異なるところとしては、追悼をしたいという意見や学級の歴史を振り返る時間をもったことです。青年たちが学級で過ごす時間を大切にしていることが伝わりました。班長会でどんな追討をしたいのかなど話し合いを進めていきました。一方でポッチャートーナメント大会をやりたいなどクリスマス会を一年の特別な行事の一つとして楽しもうとする姿が見られました。みんなで集まる時間を大切な時間にするために班長会で何度も話し合ったからこそ全員に心に残るクリスマス会になりました。



##### (3) 新年会に向けて

1月30日の新年会に向けて話し合いを何度も重ねました。ゲストを呼びたいという意見や新年会らしく歌やダンスで盛り上がりたいなど様々にできました。新年会の内容を班長会で意見交流することで「あれもやってみたい、こんなこともやってみたい」とアイデアがたくさん生まれました。またコースを超えて全員が集まる時間は青年学級にはなくてはならない大切な時間であると感じました。



#### (4) 課題と展望

##### ①成果

6・7月のわかそよ練習時から出ていた「9月からはコース活動がやりたい」という声にいち早く対応できました。9月1週目の活動で音楽、スポーツ、ものづくりの大まかな素材に分かれたことでコース活動のイメージが付きやすくなりました。生涯学習センター祭り、日帰り旅行、クリスマス会など全体での検討事項が多かったものの、各コースごとの意見を聞く・話す流れが自然とありました。

また青年主体となる活動にするために司会を持ち回り制にしました。そうすることで積極的に青年が話をすすめていきました。各コースで話し合われたことを青年たちが共有し青年たち同士で話し合いを進めていく姿がとても印象的でした。「それは時間的に難しいと思う」「今はコロナのこともあるから違うやり方にしたほうが良いと思う」など必要なところを的確に述べていました。自分の思ったことをはっきり伝えられる人たちが集まっていることから言い合いになったこともありました。これまで活動内で本音を言わずにいた表れだったのかもしれませんが、最後にお互いが自分の考えを丁寧に伝え分かりあった姿は印象的でした。

##### ②課題

担当者でひかりの班長会の経験者がほとんどいないため、青年に場所や進め方を確認しながら、一緒に進めていきました。生涯学習センター祭りの話で切り上げようとしたところ、青年からクリスマス会について話した方がいいとの意見があがりました。基本は青年主体で進めますが、担当者もある程度スケジュールや時間配分、気持ちを汲み取ったり意見を引き出したりすることは必要だと思います。担当者の質問の仕方などは聞き方を工夫する必要があります。過去の班長会ノートを参考に話し合われてきたことを確認したり、青年に直接これまでどんなことをやってきたのかななどを随時確認していき、これまでのひかり学級の良さを残しつつ新たなことにも挑戦できるようにしていきたいです。今年度の班長会の記録もしっかり形に残すことができると感じます。

##### ③展望

昨年度コース活動がほとんど無く、本格的な班長会も1年ぶりです。コース活動、つどい、全体に関わるイベントなど班長会に関わることは沢山あります。一つ一つ丁寧に話を積み重ねて実践していき、ひかり学級らしさや勢いを取り戻せて行けたらと感じます。今後は、書記も持ち回り制にして青年に任せてもいいのかもしれない。どのコースも自ら立候補して班長をやっている方なので、話し合いは円滑に進んでいきます。「自分がやらないと。」と班長という仕事に対して責任をもって取り組んでいる青年もいれば、車いすから降りて自ら話し合いの輪の中に入ろうとする青年もいました。班長会は話し合いの場ではありますが、一人一人の積極性が見られ

る場でもあります。短い時間の中で決め事をするのでどうしても焦ってしまいますが、班長がみているコースのメンバーの様子などを共有する時間があっても面白いのかもしれませんが。班長会ニュースも本来ならば青年と一緒に書くことが望ましいので班長会を13時15分で切り上げ、コース活動が始まるまでに司会のコースの青年と書く時間を設けるなど工夫をしていきたいです。また帰りのついでに班長会の内容を共有する際に「何言えばいいの」と戸惑ってしまう瞬間が多々見られました。話し合いでは様々な考えが飛び交うので最後に決まったことやまとめを担当者が視覚化するなどしてわかりやすくまとめることで青年たちも少し頭の中で整理されるかもしれません。今後も青年の主体性を引き出すために試行錯誤していこうと思います。



# つどい委員会

## 1. つどいの概要

一日の始まりと終わりに全員が顔を合わせます。学級ソングを歌うことや、班長会からの連絡事項の共有のほか、青年・担当者みんなの近況を報告し合う場です。学級ソングに秘められたエピソードを共有したり、日頃の思いや悩みを共有したりすることで、学級が一体となる場としての役割を果たしています。

## 2. 活動のねらい

自治運営を目的として、青年が自ら考えを出し合い振り返ることを繰り返し、活動しています。つどいで一体となり歌い、歌詞に秘めた言葉の意味を確かめ合うほか、一人ひとりの自分の思いを歌詞に乗せます。それをわかそよや外への発表につなげています。また学級全体で近況報告として、悩みや課題を話すことで一人ひとりのくらしに仲間と向き合っています。

## 3. 活動の内容

### (1) 共通意識を高め合う

2021年度のひかり学級は担当者不足により公民館・土曜学級から移った担当者や、学生で新しく関わる担当者から主に構成され、担当者体制が大きく変わりました。また2020年度はコロナ禍で歌がほとんど歌われていませんでした。そんな状態のため、年度前半は歌う曲が限られ、歌声が乏しく、青年の思いも聞き出せずにいました。後半にかけて担当者会議で、つどいの意味や役割を確かめ合い、つどいをより良いものにしていこうと意識を高め合いました。

### (2) 学級ソングの役割

多くの学級ソングは、青年自身の言葉が歌詞になり、青年それぞれの思いを声に出して歌い共有

することに意味があります。担当者一人ひとりにとって、学級ソングを歌うことは活動の支援という側面だけでなく、自分自身が共生社会に向けた一歩を歩んでいるという思いを抱かせます。また、学級ソングを歌う意味や、歌詞の重み、みんなで集う意味、色々考えさせられる場所でもあります。学級ソングは知れば知る程、歌えば歌う程言葉の重みやつくった人達の思いが伝わってきます。また、わかそよなどで共有されているため他学級やとびたつ会の歌もリクエストがあがります。歌われることの少ない名曲や他学級で生まれた歌も歌うことで、青年のふとしたエピソードが聞ける瞬間もあります。歌うこととエピソードを結びつけることで、歌う時の思いや青年との関係性も深まっていくのではないのでしょうか。

### (3) 担当者の役割

つどいの進行をスムーズに行うために、いくつかの役割があります。

- ・司会進行の支援者として主事
- ・楽器演奏する人
- ・パワーポイントで歌詞を出す人
- ・学級ソングを歌っている時の青年の声を拾うために、マイクを扱う人
- ・青年にメロディを知ってもらうため、盛り上げるため、思いを共有するためしっかりと歌う人

### (4) よく歌う歌と隠れた名曲

朝と帰りで4~5曲ずつ歌いますが、その場のリクエストだと曲が固まってきました。2021年度よく歌った曲として、「菜の花を咲かせよう」、「ラベンダーの彼方へ」、「笑顔」、「友達のうた」、「君への旅たち」、「生きてゆこう」等があげられます。ひかりの曲が多い中、わかそよで歌った歌や古くから学級全体で歌われてきた曲もあります。「な

ぜその歌を選んだのか、歌に関するエピソード」を聞き、全体で共有できるとより歌詞の意味が響いてきそうです。

後半は歌われていない歌も歌おうと、班長会で何曲か出し合いました。「ブルースカイ」、「空と海のハーモニー」「青春」、「野に咲く花のように」、「働く友」などがあがりました。当日だけでは聞き取れない青年の学級ソングへの思いを汲み取る機会となりました。今後はリクエストボックスを活用し、全体の意見を反映させていきます。

## (5) 全体での共有と外への発信

2021年度始めの大きな取り組みはわかそよでした。わかそよでは仲間と練習を積むことや歌を通して発信することの意味を確かめ合い、学級が一体となる時間になりました。12月には愛知県から視察に来られた方へつどいで思いを届けたり、ふれあいコンサート、とっておきの音楽祭などステージをつくる機会が増えました。学級ソングを外へ発信する前には、仲間と思いを確かめ合う時間があります。それが普段のつどいや、日帰り旅行・クリスマス会・新年会など全体で集まる時間だと考えます。

## (6) 評価と課題

### ① 成果

開級式は、ひかりにとって初めてオンラインを取り入れた活動でした。公民館学級の学級生の顔を見て声を掛け合う姿は印象的でした。活動でのオンライン活用、他学級との交流という点で良いきっかけになりました。6・7月はわかそよの練習を通し歌う機会が増えたことで、つどいでもリクエストが増えたり、全体の声のボリュームが増したり、回を重ねるごとに少しずつ活気は増しているように思います。また7月は担当者同士

でわかそよの練習をしたため関わり始めたばかりの担当者が学級ソングに触れる機会にもなりました。担当者会議で歌の練習をしたり、コールをつけたり、青年にとっても歌しやすい空間を作れたのではと思います。

### ② 課題

最も大きな課題は一定程度の情報共有はできているものの、思いを共有する場になっているかと問われればそこまでに至っていないように思います。つどいは歌うこと以外にも、情報共有や、思いを共有する時間でもあります。青年学級は日々の暮らしのことを話す場であるはずなのに、そういった暮らしに関わる部分を共有できていないのが現状です。例えば、コロナ禍から久しぶりに参加する青年の声を直接話してもらうこと。グループホームの都合で転居した青年の声をあげていないこと。コロナ禍で生活が一変した日々の暮らしの辛さを話せていないこと。自分の身のまわりに起きた変化や心境を話せていないことなど挙げたらキリがないですが、今までそういった聞くべき声を十分に拾うことが出来ていませんでした。

また、担当者体制が大きく変わったことで、これまでのひかりのつどいの雰囲気を知る人、全体に目を向ける人が少ないのが課題かとも思います。そのため、まずは私たち担当者自身の意識を変えることが大事だと思います。担当者同士でまずは歌の練習をしてみる、空いている時間を使って演奏の練習をするなど工夫していきたいです。

活動の中で発した何気ない言葉や仕草から青年の本心を感じ取っていきたいです。つどいの共有できる時間で担当者から声をかけ引き出す際には青年の言葉を待つことが大切だと思います。たと

一言<sup>ひとこと</sup>であってもそこから<sup>まわ</sup>周りの<sup>せいねん</sup>青年が<sup>はなし</sup>話を<sup>ひろ</sup>広げてくれます。青年<sup>せいねん</sup>の<sup>ことば</sup>言葉を<sup>まち</sup>待ち、<sup>しん</sup>信じ、<sup>せいねん</sup>青年に<sup>ゆだ</sup>委ねることが<sup>いちばんたいせつ</sup>一番大切な<sup>かん</sup>ことだと感じます。

## (6) 展望<sup>てんぼう</sup>

よりよいつどいに<sup>ぜんたい</sup>していくために<sup>かんが</sup>全体で<sup>かんが</sup>考えて<sup>と</sup>取り組んで<sup>い</sup>いきたいです。つどいに<sup>かぎ</sup>限らず、<sup>かつどう</sup>活動<sup>なか</sup>の中で<sup>じぶん</sup>自分に<sup>なに</sup>できることは<sup>な</sup>何か、<sup>かつどう</sup>活動を<sup>よく</sup>するには<sup>なに</sup>何を<sup>したら</sup>いいか、<sup>しよしん</sup>という<sup>わす</sup>初心を<sup>わす</sup>忘れず、<sup>がっきゅう</sup>学級を<sup>みらい</sup>未来へ<sup>つな</sup>つなげて<sup>い</sup>くことが<sup>たいせつ</sup>大切だと<sup>かん</sup>感じます。2020年<sup>ねん</sup>に<sup>ひかり</sup>ひかり<sup>がっきゅう</sup>学級<sup>ねん</sup>30年<sup>むか</sup>を迎え、2024年<sup>ねん</sup>で<sup>せいねん</sup>青年<sup>がっきゅう</sup>学級<sup>ねん</sup>は<sup>むか</sup>50年<sup>ねん</sup>を迎えます。50年<sup>ねん</sup>前と<sup>ねん</sup>50年<sup>ねん</sup>先で<sup>ゆいつ</sup>唯一無<sup>に</sup>二な<sup>がっきゅう</sup>ものは<sup>うた</sup>学級<sup>な</sup>ソングです。歌は<sup>な</sup>何がある<sup>のこ</sup>うが<sup>つづ</sup>残り<sup>がっきゅう</sup>続け、いわば<sup>がっきゅう</sup>学級<sup>な</sup>のシンボルです。50年<sup>ねん</sup>先も<sup>せいねん</sup>青年<sup>がっきゅう</sup>学級<sup>かがや</sup>が<sup>つづ</sup>輝<sup>つづ</sup>き<sup>つづ</sup>続けている<sup>うた</sup>ように、歌を<sup>うた</sup>つくり、歌い、<sup>はっしん</sup>発信<sup>もと</sup>していくことが<sup>もと</sup>これからも<sup>もと</sup>求められます。そして<sup>はっしん</sup>発信<sup>ことば</sup>する<sup>たましい</sup>言葉に<sup>やど</sup>魂<sup>やど</sup>が<sup>やど</sup>宿る<sup>やど</sup>ように、<sup>ひ</sup>日々<sup>おも</sup>の<sup>きょうゆう</sup>思いの<sup>きょうゆう</sup>共有<sup>たいせつ</sup>を<sup>たいせつ</sup>より<sup>たいせつ</sup>大切に<sup>たいせつ</sup>して<sup>たいせつ</sup>いきたい<sup>たいせつ</sup>と感じます。

## 1. 今年度の活動について

### (1) 担当者体制の見直し

まず、今年度のひかり学級を実施するにあたり、慢性的な担当者不足の状況に追い打ちをかけたコロナ禍による担当者不足により、昨年度は3名程度の担当者だけが担当者会議に参加する異様な状況でした。さらに追い打ちをかけるように、30年以上担当者を務めていた担当者が体調不良により参加できなくなったことを受けて、担当者体制は事実上の壊滅状態となっていました。

このため、ひかり学級だけではなく、青年学級全体の課題として担当者会議の中で話し合うことで、公民館学級から3名・土曜学級から2名の担当者がひかり学級へ担当者が異動することになりました。また、土曜学級からはさらに2名の担当者が応援として参加することになりました。

これによって担当者体制は、ある程度整った状況にはなりましたが、こういった中で始まる学級活動には、多くの課題と不安がありました。

青年の個性やひかり療育園という特性を知らない担当者が大勢を占める中での学級活動には、年度当初から後半までにかけて多くの課題が発生しました。

具体的には、一人ひとりの青年の名前と顔を一致させていくという新人担当者と同じ状況からのスタートでした。学級活動は、信頼関係の培われた中で青年同士であったり、青年と担当者とのつながりで活動の幅が広がります。そのため、年度前半は、初対面の人同士が初めましてと、お

互いに声を掛け合い、個性をひとつひとつ知り合っていくところから始まりました。当たり前のことではありますが、この状況下では、今までに行われていたような十分な活動を行うことはできず、青年、担当者ともに分からないことを抱えながらの活動でした。

### (2) 担当者を思いやる青年

このような状況の中で、経験のある青年から、今まではこうやっていた、あれはこうしていたというように、青年が担当者に教えるケースがたびたびありました。

本来、活動を支援する担当者が青年から教えられること自体、立場が逆転している部分もありますが、経験が浅い担当者にひかり学級での経験を伝える青年の成長が見える一面でもありました。

例えば、一年の活動を締めくくる成果発表会の準備や練習をしようとした学級日に、青年から「めくりを作らないの?」といった発言には、状況をみる余裕をなくしていた担当者へのアドバイスとして、慌ててめくりづくりを行うことがありました。

このことは、ひかりでの活動経験がある元担当者に教えを請おうと参加を呼び掛けた際にも、やむを得ず参加することが叶わない元担当者から「仮に担当者がひかりでの経験がなくとも、ひかりの青年たちから教えてもらうことが大事なのでは」との声が示している通り、十分な活動ができていないときに、青年からの声に気づかされることが特に多い1年でした。

### (3) 新人担当者の多い担当者体制

2021年度の担当者体制は、前述のとおり、他学級からの移籍や応援での7名のほかに、年度当初からかわり始めた新人担当者が4名、年度半ばに教育実習での体験を経てから参加するようになった3名、年度末近くに1名と、1年間で8名の新人担当者を迎える年になりました。

出会いと別れの多い青年学級の中で、8名もの人々がひかりでの活動を継続していきたくと思える中身を備えていたことが示唆されますが、それについては後述するとして、課題として見つめなおしたときに、初めて経験する活動がほとんどである新人担当者がコース活動や学級運営などに関わる中で、先を見通した支援をすることは難しく、目の前のひとつひとつの活動に追われる形となっていました。

#### (4) 学びの場を継続する意味

2021年度はコロナ禍とはいえ、夏頃には作業所などでの職域接種でのワクチン接種が始まり、感染対策も判明してきたことから2020年度とは違い、ある程度の活動が行える状況にはありました。しかし、家庭やグループホームなどの個々の置かれた状況により、参加を控える青年、担当者が多くいました。ただし、そういった状況にあっても、学級参加に向けて前向きに検討する青年たちがいること。そして、オミクロン株に代表される第4波、第5波といった感染再拡大の時期にあっても、悩みながらも、学びの場としての学級活動を止めてはならないという、ある種の気概を持って場を開き続けた担当者たちがいたことは、翻って学級への思いの強さが、改めて感じられる機会となりました。

他の学級では青年を守るため中止にしたり、もしくは感染リスクを少しでも少なくするため午後からのみの活動にしたりする判断がありました。個々の判断を尊重しつつも、ひかり学級が1年を通して、場としての学びの場を開き続けたことは一つの大きな成果だと捉えます。

## 2. 人が人を思う活動

ひかり学級の中で、この一年を通して、共通する取り組みは何なのかを考えたときに、個人、コース、学級、それぞれの単位で、意識的に、もしくは無意識に、人が人を思う活動ができていたのではないのでしょうか。

以下、コース活動やコース活動以外での活動から、その過程を確認します。

### (1) コース活動

#### ① ミニーコスモス（楽器音楽）コース

自己表現としての音楽活動を参加人数の上下はあれど、徹底して取り組んできたこのコースの最初話合った話題はコース名についてでした。話し合った結果、それぞれの好きな言葉を組み合わせることによってコース名は、「ミニーコスモス水色スマイルコース」になりました。やや長いコース名は、覚えづらいのではとの意見があったことから、改めて話し合い「ミニーコスモスコース」として活動を送ることになりました。

そういった中で、年度後半の時期に、自分たちの新曲づくりをしようという話が出る中で、自然と新曲の名前は、「水色スマイル」にしようと話されました。歌う人、聞いた人が笑顔になれるような曲作りをしようという思いは、家庭の事情などから参加を控えざるを得ない青年が人

いちばん多かったこのコースだからこそ、生まれた思いなのではないでしょうか。

## ② サザンカアート（ものづくり）コース

このコースでは、ものづくりをする時間以上に話し合いの時間を多く設けようとしてきました。これは、自分たちの思いを明確にするために、実際にものづくりをする時間よりも大切な時間として捉えられていたように思います。

その中でも、特徴的な取り組みとして話し合われていたのが、参加を控えざるを得ない青年たちを応援したいという話し合いが行われたことです。

これは突然降ってわいたように話し合われたことではなく、ものづくりをする前の話し合いを何度も重ねていくことで、今ここに参加できていない仲間のことを思い浮かべ、そのことについて話し合う時間が必要なのではないかという問いかけから生まれました。

このことは、青年学級に参加したいという強い思いを持ちながらも、ニュースや周囲から伝えられる状況から1日での活動を自らの判断で控え、半日だけの参加もしくは欠席するといった青年がいました。この青年は、学級歴の長い人が多いひかり学級の中では、若手でありながらも学級活動への意見ややりたいことを学級日に留まらず、生涯学習センターに電話連絡をすることも多くあり、生来からの気質と思われる明るく、笑顔の絶えない青年であるだけに、本人の判断として半日、欠席することは多くの葛藤があったのではないかと推察されます。

## ③ スポーツで伝える2022（健康）コース

このコースは、コース名からもわかる通り、伝えることをコース活動が始まった当初から意識していました。例えば、定期的に行ったボッチャなどのスポーツをする中で、青年が青年を思いやる「もっと前にいっていいよ」などの青年からのアドバイスがありました。

また、日帰り旅行で初めて体験したディスクゴルフを、コース活動として、もしくは学級活動の幅を広げるために自作でのディスクゴルフ用のボールをつくり、自分たちが日帰り旅行で得た新たな体験を伝えようとしたことは、まさしくコース名通りの活動ができました。

コロナ禍で衣食住の環境が激変したため、嘔吐が止まらない症状になりながらも活動に参加する青年がいました。その青年は、活動中もひとりへやすみにいつぶることが多かったのですが、コース活動の中で、順番が回ってくると当初は担当者からの声掛けが必要でしたが、次第に自ら率先して動き、ディスクゴルフやボールを投げていく様子からも、スポーツを通して人に伝わった一例です。

また、発語が苦手もしくは難しい青年も筆談や指談を通して、青年の思いを掬おうとする取り組みが行われました。特に、指談では、正確な聞き取りが難しい部分もありましたが、本人の思いをうまく聞き取ることができた時の青年の表情からは今まで以上の思いが込められたように思います。

## ④ ふれあって飛びたとう編集部（課外活動を考える）コース

コロナ禍で、グループホーム側の取り決めで

外出が禁止され、文房具すら買うことができなくなったと嘆いている青年の思いがクリスマス会に向けた話し合いの中で共有されました。この声を受けて、学級活動として買い物に行くから一緒に文房具を買いにいったらいいのではとの提案がありました。早速、買い物をする中、文房具を選ぶ青年の目がきらきらと輝く姿は忘れられません。

また、30周年式典に向けた活動として紙漉きでハガキを作る活動がありました。ただ折り悪く感染状況が高まったことを受けて、参加を控えざるを得ない青年たちも多くなりました。このため、少ない人数での紙漉きとなりましたが、作ったハガキを休んでいる青年たちに向けてメッセージを送ろうという発言のもと、ハガキが作られました。

## (2) その他の学級活動

### ① つどい

学級の始まりと終わりに全員が集まるつどいの中で、お互いを思いあう場が、活動を始めた当初はなかなかできていなかったように思います。

例えば、わかそよに向けた活動をしていた時期は、わかそよ以外の活動がしたい人と意識が合わず、すれ違っていることがありました。そういった中で、うたの練習以外にも、衣装や小物づくりが必要なことに気が付いた担当者がものづくりをしてみないかと提案することで、同じ方向を向いて活動に参加することができました。

また、選挙の学習会を行った日は、青年学級を開設した大石洋子さんの訃報が入った直後の回でした。大石さんとの思い出が自然と語られる中で、1か月前に母を亡くしたばかりの青年からも親を悼む言葉が上がりました。その後、同性の

担当者がトイレの中で「もっとちゃんとうまく話したかった」と発言を後悔している姿を見かけました。聞いている側としては、十分に親への思いがあることを共有していたつもりでしたが、やはり当事者でなければ分からない、本人だからこそその思いを間接的ではあるものの知ることができた場面です。

このように、つどいの中では、人が人を思う活動が、誰に言われることもなく、一人ひとりが自然と行っていたように思います。

### ② 班長会

班長会での話し合いの中で、ある青年からの発言に対して、それはおかしいという発言が重なり、青年同士で言い合いになることがありました。お互いの意見を大きな声で言い合っていく様子は、一触即発といった状況になりました。担当者が一度間に入って、状況を整理することで落ち着きを取り戻すと、お互いの過ちを認めてその場で和解することができました。

ただの喧嘩という一面もありますが、班長会という学級全体の活動を進め話し合う場の中で、お互いが本気になって話し合っているからこそ、起こることだと思います。班長だからこそ、学級を大切に思うからこそその発言だったのではないのでしょうか。

## 3. 青年学級としての活動

生きる上での障害があっても人が人らしく生きることが、青年学級の目的である「生きる力・働く力の獲得」ではないかと考えさせられる一年でした。

これは、コロナ禍にグループホームで暮らす

青年が活動に参加できないこと。自身の判断だけでは行動に移せないことが多いこと。ややもすれば、青年自身が判断を待ってしまう状況に置かれること。半面、担当者や障害がないといわれる人たちは、自身の判断で友人と外出をして会食などを行っています。

ここに障害という大きな差があります。この違いを埋めるための活動が青年学級ではないかと考えたときに、それに向けた活動ができたのか。その答えはイエスであり、ノーでもあるように思います。青年学級という枠の中では、青年主体の活動をすることはできたように思いますが、青年が担当者の判断を待つことはあったようにも思います。青年が担当者の判断を待たずに、もしくは意識せずに自らの意見をぶつけ合っていくことができたときに、現状より一歩進んだ活動が生まれるのではないかと思います。担当者のやること、やらなくていいこと、関わり方を考え改めていく必要があります。決して指導的な立場ではなく、友人や知人としての関わり方が必要なのではないかと思います。いかにして目線を近づけるか、当事者目線を持てるかは、どれだけ青年一人ひとりを理解していくこと、人が人を思うことから始まるのではないかと考えます。

